

## 「教育と公共」研究部会（第27回）

日時：2021年7月9日（金）13:00～14:30

場所：オンライン（Zoom使用）

出席：上野正道・浅井幸子・狩野浩二・仲田康一・藤井佳世 各兼任研究員  
吉久知延所長・金沢千秋・山口和人・川上智子（野間教育研究所事務局）

欠席：田嶋一

内容：（1）藤井研究員：「コミュニティ、コモンズ、公共性の絡まった糸を解きほぐすーコモンズに着目して」

◆待鳥聡史・宇野重規編著『社会のなかのコモンズー公共性を超えて』（白水社, 2019年）の紹介

- ・コモンズ概念とは
- ・コモンズ概念のポイント
- ・コモンズ概念の可能性

◆問題提起

- ・学校をコモンズとして捉えるだけで十分か？
- ・コモンズは公的・私的の分離が前提だが混合する学校の場合はどうなるのか？
- ・障害者や子どもなど依存関係にある場合でもコモンズ概念は意味をもつか？
- ・日本におけるコモンズの一例としての団体は現代の連帯とどうに関わるか？
- ・熟議コミュニケーションの共同体を学校教育として考えるならどんな説明の変更が必要か？
- ・公共施設としての学校（都市型施設の維持管理としてのコモンズ）の視点をどう説明するか？

（2）浅井研究員：「『コモン・ワールド』におけるコモンの概念」

◆Routledge Contesting Early Childhood シリーズの2つの目的

- ・幼児教育におけるドミナントな言説を問う
- ・多様なパースペクティブと議論で構成されるオルタナティブの探求

◆RECE (Reconceptualizing Early Childhood Education) のグローバルなネットワーク

- ・1991年にウィスコンシン州で最初の会議開催
- ・普遍的な発達の観念とDAP(発達にふさわしい実践)への批判

◆Routledge Contesting Early Childhood シリーズの1冊、Reconfiguring the Nature of Childhood, 2013 Affrica Taylor の紹介

- ・キャンベラ大学非常勤准教授、コモン・ワールド・リサーチコレクティブの創設メンバー
- ・本書は、「コモン・ワールド」のフレームワークを援用し、ロマン主義における「自然としての子ども」の概念の構築を批判し、生産的に幼児教育の伝統的価値を見直した。

・次回研究会 9月10日（金）13:00～